

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社クロス・サービス	事業所名	看護小規模多機能ホームほのかのめぐり
所在地	(〒790-0043) 愛媛県松山市保免西3丁目9-26		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

『出逢えてよかった。 めぐり逢えた奇跡を大切に
思い出を積み重ね共に歩いていきたい
どこかでまためぐるあなたと』
を理念とし、自分で選べる生活を支援します。
「通い」を中心にご利用者の様態や希望に応じて、「訪問」「泊まり」といったサービスを組み合わせて、自宅で継続して生活するために必要な支援を行います。 ひとりひとりの思いや生活スタイルを大切にしています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 8 月 15 日	従業者等自己評価 実施人数	(10) 人 ※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 8 月 22 日～2025 年 2 月	出席人数（合計）	(8) 人 ※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	☐ 自事業所職員 (4) 人 ☐ 市町村職員 () 人 ☐ 地域包括支援センター職員 (1) 人 ☐ 地域住民の代表者 (2) 人 ☐ 利用者 (1) 人 ☐ 利用者の家族 () 人 ☐ 知見を有する者 () 人 ☐ その他 () 人		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)				
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)			
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)			
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)			
Ⅲ．結果評価 (評価項目 42～44)				

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		運営上すべきこと、必要なことはできている。今後もケアの質や地域で困っている方を受け入れていけるように質の向上を図っていききたい。時間をかけて地域の方へもお伝えしていききたい。	地域の方やご利用者ご家族が運営について知りたいことや看護小規模でできる支援内容を運営推進会議の議題にして、お伝えしていく。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	多職種が関わる状況が多いので、今後もそのことを意識して、各職種で気づきやご本人のアセスメントを共有して、ご本人の意向や状態に合わせた支援となるように調整していききたい。	タブレットでの記録やミーティングを活用し、アセスメントや日々の記録を職員間で共有する。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	主治医との連携が十分でないご利用者もいる為、ご本人の意向や状態に合わせた連携が取れていけるようにしていきたい。また、運営推進会議にも他事業所の方にも参加してもらえるように働きかけていきたい。	地域の事業所とも連携がはかれるように、情報発信や運営推進会議への参加の声掛けをおこなっていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	地域へのアプローチや事業所からの発信はまだまだできていない状況ですので、今後も時間をかけて発信したり、地域の集まりに参加させてもらえるように情報収集していききたい。	地域にあるサロンや集まりについて情報収集する。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		ご利用者お一人お一人の意向や状況を理解し、安心して生活が送れるように時間をかけてアセスメントをしたり、職員一人一人のスキルアップも必要だと思う。	ミーティングで支援経過や事例を共有し、ご利用者の立場に立った支援の具体を共有していく。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足		
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い				
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]									
(1) 理念等の明確化									
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践									
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている			○		・年を重ねることは良くなっていくことはないので、それを踏まえたサービスが必要なのではないか。 ・いろんなニーズに対応してほしい。	✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」		

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			・親切に優しく話してくれると嬉しい。	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 管理者と話し合い個々の目標をたてている。(C票にて) 目標にむけた取り組み内容も。新スタッフについてはチェックリスト等も活用。					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			・外部の研修を受けようと考えている事業所は多い。 ・内部研修では職員が講師になることで効果があると聞いたことがある。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 年間研修計画、実践、研修ノートで振り返りと共有。認知症や感染症の勉強会あり。随時の社外研修情報は別途案内あり。受けた研修を申し出ることできる。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			・介護職のリーダー、看護職のリーダーをたてて話し合うことで、まとまるチームが作れるのでは。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 月1のミーティング実施。毎朝のミニミーティング。日中も必要に応じカンファ。タブレットで申し送り。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			・外から見るのと中に入るのとは印象が違うし、滞在する時間によっても事業所の印象は変わると思う。 ・中の様子まではわからないものだと思う。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 運営推進会議での話し合いは必要に応じ伝え、ダイレクトに活かされる内容でないこともあるがスタッフに意識してもらえるように配慮。 地域で行われている行事等の情報交換をおこない参加。事業所前の交通安全の話からミラー設置。					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 急な休みに対して協力しあい変更。 スタッフ間で業務調整し休憩とる。 必要に応じ話し合い。長時間労働にならないようシフト調整。スタッフも感染対策と環境整備。互いにアドバイス。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、 随時更新を行うとともに、 必要に応じて職員間で迅速 に共有できるよう工夫され ている		○			経験があるからわかるが、昔 は記録は手書きだったので 大変だった。タブレットの使 用は時間短縮にもなると思 うので、良いと思う。 確認は、読むだけになりがち と聞くので気を付けてほし い。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間 で迅速に共有するための工夫」の 2つの視点から、充足度を評価し ます
[具体的な状況・取組内容] 即必要なことは行動予定記入、もしくは メモ貼る。タブレット記録から必要な情 報把握。申し送りほどのスタッフが見た かもわかる。朝夕口頭でも伝える。							
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者 等および職員の安全確保の ため、事業所においてその 具体的な対策が講じられて いる		○			地域で見えていても、運転で危 ないと感じたことはない。前 の道はスピードを出す車も 多いので気を付けてほしい。 こうゆうことは、一回言っ てというよりも何回も伝える ことが大切だと思う。	✓ 「各種の事故に対する予防・対 策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、 例えば「医療・ケア事故の予防・ 対策」、「交通安全」、「夜間訪問時 の防犯対策」、「個人情報保護」な どが考えられます
[具体的な状況・取組内容] ベッドからの転倒防止のためセンサーを 使用したりベッド下にマット使用。 ヒヤリハット事故報共有、次のケアに活 かす。転倒時対応マニュアル等整備。 行方不明時や AED 必要時の対策も。 安全運転チェック年 1 回実施。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	およそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			地域でも定期的に行っている。備蓄の確認等が主になっている。在宅で支援が必要な方へも避難計画が必要になっているので、民生委員さんとかと協働しながら作成している。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> BCP 作成。非常時備蓄も用意。避難訓練実施やマニュアル整備。家族への働きかけがあるとなおいい。緊急時連絡リスト作成。計画はできているが実際はいろいろな問題がでるかも。					
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			情報収集は難しいところだと思う。なるべく相手が意識せず自然体で聞き取るようにするのも大切なのではないか。	✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 送迎時の情報や訪問から在宅生活の把握しているがアセスメントは十分でないかも。通いでの状態に着目しがち。夜勤スタッフは特に自宅状況を意識しづらい。ただ日中時間以外にも相談等看護師対応。ご家族体調不良時に通い→臨時泊りサービスを提供するなどできている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○			タブレットになっており、読んだだけになっていることもある。何度も確認することで、ヒヤリで済んでいる事例もあるのでは。	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			ご利用者のご家族で意見が違ふこともあると思う。特に医療の考え方は違ふがあると思うし、高齢者は自分の意見は変えないので大変だと思う。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			ACP 研修もよく聞くようになってきているが、地域でも十分な理解にはつながっていないと思う。今後のことはわからないと考えている人が多いのでは。	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ケアマネ主導でおこなえている。 状態が悪くなればケアプランは変更。看護計画も変更している。 日常生活に変化あれば早期把握計画反映できている。経過記録を職員がまとめケアマネと共有。アセスメント実施しサービス計画や内容変更している。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		○			通いの場合は、思いを発散できたり、気晴らしになったり、ここにくるから在宅生活が我慢できるという場所になると安心なのではないか。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 訪問は現状少な目、送迎時等の確認で補完。在宅でいることの不安があれば細かく聞き取りしている。ケアマネから電話での聞き取り含め実施。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○				✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 受診時や必要時主治医等と情報共有。 福祉用具、リハ、ST とも。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			多職種の連携は難しい印象がある。工夫のしどころだと思う。	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] 看護師に確認してほしいことがある時は声かけしすぐ対応できている。ミーティング等でそれぞれの視点から話し合っている。現在看護的分野で必要な対応は少ないが必要時は積極的なアプローチができている。					
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 特に ST、OT とは意見交換できている。タブレットで共有できている。ケア方法、医療面での注意事項やケアの取り入れなど口頭での相談連携できている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対し て、疾病予防・病状の予後予 測・心身の機能の維持回復 などの観点から、情報提供 や提案等を行っている		○			職種の違いも個人の認識の 違いもあるので、具体的に説 明したり確認することが大 切なのではないか。	✓ 「看護職の専門性を活かした、介 護職への情報提供や提案等」につ いて、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、 看護職の専門性を活かした役割 の1つとして期待されます
		[具体的な状況・取組内容] 病状が進行的に変化してくるであろうご 利用者について早めに情報提供。排泄対 応（服薬）についてはそれぞれが判断で きる体制があるといいかも。					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく 説明し、利用者等の理解を 得ている		○			実際に利用しながら説明し てもらったり、選んだりして いると思う。	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 新規相談や契約時等にわかりやすい言葉 で説明。契約書にサインもらっている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅 での療養生活の継続に向け て留意すべき点等につい て、分かりやすく説明し、利 用者等の理解を得ている		○			わかりやすい言葉で説明す る必要があるのではないか。	✓ 「利用者等の理解」について、充 足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 居宅サービス計画メインに口頭で説明。 不安のあるご利用者にはくり返し。医療 ケアについても説明。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			本人と家族とで意見が違うこともあるので、双方に聞いたり確認したりすることが大変だが、必要だと思う。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ご本人には表情等見ながら意向や不安についての確認を普段からおこないケアに活かしている。家族判断の場合にも日々の様子を伝えることを大事にしている。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ケアマネメインで実施。自宅での生活が難しいご利用者について職員間でも話し合い施設紹介など対応。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			最後までというサービスは利用する側としては安心できるのではないかな。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○			緊急時を事前に確認していることが安心につながる。	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 夜間帯急変時のフローチャート作成。 救急医療機関当番表スタッフルームに掲示。個別の対応方針作成については一部のみになってしまっている。救急病院受診になることが多いが既往歴等情報しっかり伝えている。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			・外から見るのと中に入るのとは印象が違うし、滞在する時間によっても事業所の印象は変わると思う。 ・中の様子まではわからないものだと思う。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		[具体的な状況・取組内容] 運進では利用者が利用できるような活動がないかお聞きしている。 提案は少なめ。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○				✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 議事録あり。いつでも読むことができる。重要な内容は申し送りで。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			サロンや老人会等で、介護保険のことやサービスのことを説明してもらう機会をつくってもいいのかもしれない。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 地域の方に運進があること伝えたり、外にたよりやイベントの案内貼ったりしている。まもるくんへの参加。					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 指定なし （法人内に訪問看護ステーションがあるため現状では必要性がない。）					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							看護」を実施していない場合、 「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている			○		地域からくる相談は、支援の 状態や介護の入口の方が多い。 医療の強い方は病院で対 応してもらっている印象。	✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 本体事業所で体制が整えられており、常 にケースがある。サテライトでも日中の みは対応できる。 吸引実施は看護師しかできないが、吸引 が必要だと他スタッフも判断ができるよ うになるとなっている。					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている			○		若い方で呼吸器を使ってい る人のサービスも少ないと 聞いているので、受け入れて もらえると心強い。	✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 本体事業所で体制が整えられており、過 去に受け入れたケースはある。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○			✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○		今後も理解に努めてほしい。	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			遠方にも訪問や迎えに行っていると同っている。	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○		運営推進会議の短い時間では理解するのに時間もかかると思う。お一人お一人を理解しようと思うと、運営推進会議だけでは不十分だと感じるし、サービス自体もわかりにくい印象を持っている。	✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○		以前のように地域で家族介護教室を開いても参加者が少ないと聞いている。家族も仕事を持っていたりして思うように介護に参加できていない状況もあるのでは。また、介護保険事業所も増えて、社会全体で支えるということが進んだのではないかな。	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 特にレスパイトケアに対して柔軟にできている。ミーティングでのサービス振り返り、経過記録、モニタリング作成から次のサービスに活かしている。	一人一人のことを知ろうとされていることが伝わる。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> 服薬、インスリン管理の不十分なご利用者宅に訪問しアドバイス含め必要な対応。看護師24時間相談対応できることをプリントで配布周知。	このようなサービスがあることが安心に繋がっている。引き続き様々な方を受け入れられる事業所を期待する。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>【具体的な状況・取組内容】</u> 1人いっちゃったが今はいない。 家族の満足度は得られたと思う。	地域でも看取りの情報は少なく、病院で対応している印象。	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」